

FUJIEDA ROTARY CLUB

# 藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail [club1972@fujieda-rotary.org](mailto:club1972@fujieda-rotary.org)

会長：青島 彰 副会長：仲田 廣志 幹事：大塚 博巳 副幹事：池ノ谷 敏正



【梅の花】

写真提供：鈴木舜光君

## 第1939回

- ソング 君が代・奉仕の理想
- ソングリーダー 大長昭子君



【2011-2012年度 RIテーマ】

こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために

カルヤン・パネルジー

### 会長報告

青島 彰君

3月3日、4日と白山RCの創立45周年を祝う会に仲田副会長、石垣直前会長、大塚幹事、青島40周年実行委員長、森下奉仕P委員長の6名にて出席しました。昼少し前に藤枝駅を出発し午後4時頃には会場のグランドホテル松任に到着し登録受付しました。

会長、幹事は来賓とのことで来賓控室に案内され、抹茶を頂きました。他のメンバーは控室でコーヒーのサービスがあり、それぞれ開式を待ちました。

午後5時30分に北田会長の点鐘により開式しました。物故会員が3名あり紹介ののち黙禱を捧げました。西尾名誉会員は本年2月20日になくなっていますので大変残念なことであったと思います。実行委員長の開式挨拶に続いて、来賓紹介、会長挨拶、記念事業発表(会員お宝展・米山寄付20万円・東日本大震災支援金100万円)、炭谷地区ガバナー、作野白山市長、スポンサークラブ金沢西RC会長の来賓挨拶と式典は非常にスムーズに進み約45分で閉式となりました。祝宴では祝辞は私一人とのことで緊張しまくりでした。なんとか大きく問えることもなく無事に役目を終えました。乾杯ののち1時間半程で「手に手つないで」を歌い閉式となりました。式典会場はホテルのバンケットルームを3分の1使っているようでガバナー他来賓とクラブ役員がテーブル付のイス席、参列者と一部来賓はテーブルなしのイス席でした。祝宴会場は円卓、イス席の配置となっており総勢180人の人数でも比較的ゆったりとした感じで

した。2次会もホテル内であるとのことでしたので参加させていただきました。

翌日は会員の薦めもあり記念事業の「会員お宝展」の会場を見学させてもらいました。展示作品の中には太田会員のプロ級の油絵があり感心しました。しばらく作品の話して盛り上がったのち白山の皆さんとお別れし、兼六園を見学し東茶屋街の「蛭屋」さんで昼食をすませて帰路につきました。

### 理事会報告

大塚 博巳君

- 3、4月のプログラムが承認されました。
- 第2620地区「2012-13米山奨学生・世話クラブとカウンセラーの受入依頼」本年度の受入なしと承認されました。
- 第2620地区「青少年健全育成のためのボーイスカウト運動へのご支援」支援見合わせが承認されました。

### 幹事報告

大塚 博巳君

- 藤枝南ロータリークラブより、親睦ボウリング例会の案内が届いております。
- 藤枝市国際友好協会より、FIFSニュースが届いております。
- NHKプラネットより、講演会「人を知る時代を知る」の案内が届いております。
- (財)比国育英会バギオ基金より、バギオだよりが届いております。
- 平成祈念病院より、ペット検査・脳ドックの案内が届いております。

●結婚記念日おめでとうございます●

小西 啓一君  
ご夫妻



松葉 隆夫君  
ご夫妻



■ 出席報告

小西 啓一君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
36 / 44 81.82%	34 / 44 72.27%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

石割君 落合君 酒井君 鈴木廣君  
松葉義君 水野君 鈴木舜君 仲田晃君

スマイルBOX

小西 啓一君

●会員誕生日ありがとうございます。40周年と介護、負けずに頑張って67才を向かえます。

青島 克郎君

●誕生日ありがとうございます。早いもので、この間1つ年を取ったばかりの気がしてなりません。

池ノ谷 敏正君

●夫人誕生日ありがとうございます。最近、家内が美人にみえるようになりましたが、老眼のせいでしょうか。

青島 克郎君

●妻の誕生日プレゼントありがとうございます。これでロータリー行事に出やすくなります。この点でもありがとうございます。

島村 武慶君

●家内の誕生日ありがとうございます。何回目かは彼女にきいてみます。

栗原 毅君

●家内への誕生日ありがとうございます。

江崎 友次郎君

●妻の誕生日ありがとうございます。年令は5

年前から止まっているようで、家では誕生日の話は自分からしない妻です。池ノ谷 敏正君  
●妻へのプレゼントありがとうございます。必ず渡します。

池谷 佳典君

すっかり忘れていました。妻を食事につれてみようかな？

河井 宏文君

●結婚36年長い様で短い36年でした。妻に感謝しています。これからもよろしく。松葉 隆夫君  
●ありがとうございます。24年経ちました。びっくりです。

玉木 潤一郎君

●父母の金婚式のお祝いをしたのがつて先日のような気がしております。私たちもあと2年で金婚式です。本当にうそのようです。これからはけんかしつつ、いたわりつつ、金婚式をめざし頑張りたいと思います。本日はお招きいただきありがとうございました。

小西 静枝様

●おかげ様で49回目の結婚記念日。祝って戴きありがとうございます。

栗原 毅君

●55年目の結婚記念日を二人揃って元気に迎えることが出来、感謝一杯です。

江崎 友次郎君

●14年かたいへんお世話になりました。藤枝RCのご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

後藤 功君

●昨夜の後藤功会員の送別会に多数ご出席頂き有難うございます。余剰金です。

後藤功君送別会参加者一同

●結婚記念祝例会に妻を招待いただきありがとうございます。

松葉 隆夫君

●妻をお招きいただきありがとう。愚妻・妻・女房・ワイフ・愛妻・オイ・・・

小西 啓一君

スマイル累計金額166,970円

ロータリーの友紹介

江崎 友次郎君

ロータリーの友3月号のご案内を致します。3月は世界の中で未だ読み書きの出来ない人が多数いる事を知り、識字率向上月間とした。8ページからは国際ロータリーが目指している基本的教育と識字率の向上について、ロータリアンは何ができるかを国際ロータリーの資料から教師の養成、生徒への支援を特集しています。驚くべきことに、全世界で7,500万人の子どもが教育を受けて

いない事、また全世界で6億7,700万人の16才以上の人が読み書きができないという現実が紹介されています。

また、40ページからは、ロータリーに広報は必要か否か、会員皆さんの意見をうかがいたいと、同論イエス、異論ノーを問い掛けるコーナーがあります。

次に縦ページには2ページから松下幸之助成功の発想と危機克服の心得と題して、松下資料顧問の川越森雄氏の講演内容が記載されています。昨年2620地区沼津で行われた地区大会での記念講演の内容が紹介されています。改めて是非一読下さい。

## ■ 会員卓話

中森 義次君



初めに会社の紹介をさせていただきます。当社は社名にもありますように、冠婚葬祭をサポートさせて戴いている企業です。冠婚葬祭とひとまとめに申しますが、人が生まれてまずお宮参り、誕生祝い、七五三、入園、入学、卒業、成人式、そして、結婚、結婚記念日、長寿の祝い(いわゆる賀寿) 葬儀、供養(法事)と人生の節目には様々な行事があります。その中で主力となるのが結婚と葬儀です。人生の中の祝いごとと結婚式をグラントティアラ(高砂殿) 葬儀と祭りごとを愛昇殿でサポートしています。どちらかと言うと非日常のことを生業としている企業なのかなと思います。非日常の衣食住を販売する会社と言えるかもしれませんが、住はほとけ様のお住まいのお仏壇やお墓のことです。

当社は元々、貸衣装と祭壇を手頃な価格で会員に提供することを目的にして創業してきましたが、結婚式場や葬儀会館といった施設を持つようになってからは、非日常だけでなく日常的な分野にも進出するようになりました。

たとえば、同窓会や忘年会や新年会といった宴会事業、化粧品や健康食品、健康器具の販売、宝飾品の販売、損害保険や生命保険また、グループ企業のサービスとして旅行、宿泊、エステやネイル、結婚相手の紹介や出会いの提供といった婚活、家具や寝具など、ライフステージの様々なニーズ対応できるよう努力しています。

今後は、本業において地域の企業様との提携により医療や介護、相続や遺品の整理、不動産の管理や処分といったライフエンディングステージ(終活)での良きアドバイザーとなれたらと思います。

はなしは変わりますが、東日本大震災から間もなく1年を迎えようとしています。このような災害や大事故が起きた場合、私どもの業界はあまり報道されませんので、知らない方も多いと思いますが、支援活動の枠組みの中に組み込まれていません。残念ながらお亡くなりになった方の事故現場からの搬送、安置所でのご遺体の処置や納棺、御自宅やお身内への搬送といった具合です。

私の経験では、信楽高原鉄道事故での現場からの搬送、中華航空機事故での納棺、阪神淡路大震災での安置所からの搬送などです。また、数千人規模で行われる慰霊祭にも応援要請がきます。

今回の東日本大震災においても監督官庁の要請により、愛昇殿グループで1万本のお棺を被災各県に昨年の3月15日から17日にかけて送りました。実は愛知葬祭の創業者が伊勢湾台風の際、犠牲者が仕方なくビニールに包まれ焼かれたのを見て、葬儀業者として大きくなれたら、亡くなられた方をちゃんと送りたいという思いを持ち続け、阪神淡路大震災の後來るべき東海地震に備え備蓄したものです。神戸の様子を見て陸路での輸送ができない可能性を考え、名古屋市内の運河沿いに倉庫を建てたのですが、今回の津波を見て、備蓄棺を全て使ってしまったのを機会に内陸の春日井市に備蓄を始めることを決めました。

また、今回は犠牲者の数があまりに多かったため、お棺はもちろん骨壺や仮位牌などを全国の互助会が業界団体を通じ、栃木県を中継基地にして被災各県に届けました。(担当/大長君)